

# 温暖化防止へ創作劇



## 平田小児童「今できること」考える

小学校  
ごみの分別に挑戦する児童たち＝28日、出雲市立平田

環境市民団体「くにびきエコクラブ」(北垣幸久会長、会員44人)が28日、出雲市平田町の市立平田小学校で環境創作劇の上演と参加型の環境学習を行った。参加した5年生54人と保護者らは、地球温暖化防止に向けて「今できること」への意識を高めた。

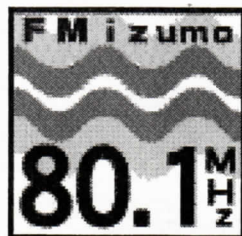
### くにびきエコクラブ

同クラブは2009年、県高齢者大学校「くにびき学園」の卒業生や在校生を中心に発足。食べ物の大切さや節電などをテーマにした環境創作劇を県内各所で上演しており、地球温暖化防止や循環型社会の創造を目指し環境改善活動を行っている。

劇では、シジミ漁師の親子らのやりとりを描きながら、地球温暖化がこのまま進むと宍道湖が海になり、シジミが全滅してしまうと警告。「地球の温暖化を止めよう」「宍道湖のシジミを守ろう」と児童らに呼び掛けた。

ごみの分別と、白熱電球と蛍光灯、LED電球の3種類の消費電力測定実験では、児童たちが実際に体験。温暖化を食い止めるために、生活の中でどういっしょに気をつけたらいいのかを考えた。

ごみの分別に挑戦した堀内優大君は「これからごみの分別や節電に気をつけたい」、北村蒼生(あおい)さんは「温暖化が進むとシジミがとれなくなってしまう。電気をこまめに消したりして食い止



めたい」と決意。

北垣会長は「経済活動を優先してしまつた社会。(子どもたちが)未来を生きる中で、環境のことを考えられる人に育ってほしい」と話した。